



2026 年 8 月 7 日

各 位

会社名 K T C（京都機械工具株式会社）
代表者名 代表取締役社長 伊吹 和彦
（コード 5966 東証スタンダード）
問合せ先 総務部長 桐山 香
（TEL 0774-46-3700）

当社取締役会の実効性に関する評価結果の概要について

当社は、コーポレートガバナンス・コードに基づき、取締役会の実効性を高め、取締役会の機能向上を図ることで、より一層の企業価値を向上させることを目的とし、取締役会の実効性に関する分析・評価（自己評価）を実施いたしましたので、その概要をお知らせいたします。

記

1. 分析・評価の方法

当社は、2026 年 3 月期を評価対象期間として、社外役員を含むすべての取締役（監査等委員を含む）に対し、以下の内容の「当社取締役会の実効性に関するアンケート」を配布し、全員から回答を得ました。得られた回答をもとに当社取締役会において、結果の分析や今後の課題について審議いたしました。

【実施時期】： 2026 年 7 月

【質問内容】： ① 取締役会の構成に関する質問 4 問
② 取締役会の運営に関する質問 9 問
③ 取締役会での審議充実に向けた質問 12 問
④ 取締役会を支える体制に関する質問 7 問
⑤ その他（前年度との比較評価、要望事項等自由記載） 3 問

【回答方法】： 各設問に対し、5 段階評価およびコメント（理由・意見）/ 記名式
なお、意見記載事項については別途ヒアリング調査を実施いたしました。

2. 分析・評価結果の概要

アンケートの集計結果を基に当社取締役会で審議した結果、当社取締役会は、上記評価項目については概ね適切に機能しており、取締役会の実効性は確保されていると判断いたしました。

また、昨年度課題として認識しておりました以下の項目につきましても、新たに「取締役会がなすべきガイドライン」を制定し、取締役会ならびに取締役が果たすべき役割をより明確にしたうえで、ガバナンスの再構築・強化に取組み一定の改善を確認しております。

【2025 年度抽出課題への対応状況】

課題	対応状況
リスク管理体制の整備・運用に関する議論が不十分	内部監査部門を社長の直轄組織とし、取締役会において定期的に内部統制システムの評価・課題を共有し対策を協議する体制を構築・運用
経営に対する監督機能が不十分	新たに制定した「取締役会がなすべきガイドライン」において、取締役会の第一義的な役割を「会社の重要な意思決定と業務執行の監督・監視」と定め、執行と監督の分離を徹底
取締役におけるトレーニングの機会や支援の必要性	定期的且つ継続的な外部コンテンツによる教育カリキュラムを策定し、運用を開始。また、「サクセッションプラン運用規程」を新たに制定し、将来の役員候補についても計画的な教育を行う仕組みを構築中
子会社のグループにおける経営的な位置付け、戦略に関する議論が不十分	2026 年 10 月 1 日付で当社に吸収合併することを決定。本年 5 月 15 日付で公表した「新 5 ヶ年計画 Restart KTC vision 2030」において議論を継続
子会社の財務管理が不十分	吸収合併により財務管理を当社に一本化することを決定し、体制を構築中

3. 今後の対応

当社取締役会は、今回の評価を踏まえ、今後も取締役会での議論を更に充実させるとともに取締役会の実効性確保に一層努め、より充実したコーポレートガバナンス体制の構築と更なる企業価値の向上を目指してまいります。

以 上